

[ソフィア・レイ] ボーカリスト／ソングライター／プロデューサー／教育者

アルゼンチン出身で幼少期よりクラシック音楽の勉強を始めセルバンテス国立劇場のアルゼンチン国立児童合唱団に入団。国立音楽院大学で声楽を専攻しマルタ・ブランコ教授にオペラを習い、メゾソプラノ歌手として舞台に立っていたが19才の時に初めてジャズに触れてから即興演奏を学び始める。

2001年、アメリカに渡りボストンにあるニューイングランド音楽院でジャズと即興演奏を学ぶ。そこで彼女はチャーリー・バナコス、ダニロ・ペレス、ドミニク・イーデ、ステイブ・レイシー、ボブ・モーゼス、ジェリー・バーゴンジー等に師事し特に指導者のジョージ・ラッセルに励まされ、独自の音楽を書き始める。

また、在学中に南米ペルー出身の在學生でベーシストのホルヘ・ローダーと出会い、彼とは頻りにコラボレーションしている。

2003年、ニューイングランド音楽院でジャズと即興の修士号を取得して卒業する。

その後ニューヨークに移り、「マリア・シュナイダー・ジャズ・オーケストラ」の世界ツアーに参加し、同年に8重奏団で録音したデビューアルバム「Ojalá」をリリースする。彼女自身の作曲とアルゼンチン、ブラジル、キューバの作曲家の曲のアレンジで構成されたこのアルバムは、ジャズジャーナリスト協会によってその年のトップ10レコードの1つに選ばれる。オール・アバウト・ジャズはこれを「折衷的でエキサイティング」と評し、「ラテンジャズとラテンアメリカ音楽全般の最近の傾向を例示し、ソフィア・レイがニューヨークの音楽シーンで最も多才で需要のある歌手の1人である理由を証明している」と書いている。

2008年、彼女はカーネギーホールでジョン・ゾーンの委嘱作品であるインスタント・オペラでボビー・マクファーリンと共演する。また、彼女はジェフ・キーザーのグラミー賞ノミネートアルバム「Aurea」でコラボレーションした。2009年、レイは2枚目のアルバム「Sube Azul」をリリースした。収録された12曲のうち8曲を彼女が作曲しホルヘ・ローダーと共同プロデュースする。

オールミュージックは「南米のフォークスタイル、ジャズ、ポップ、ニュークラシック、エレクトロニックミュージックなどから影響を受け彼女を他のどの先駆者とも比較するのは難しいが、彼女の喜びと情熱はフローラ・プリム、セリア・クルス、アビー・リンカーンにも匹敵するだろう」と評しこの年のベスト・ラテン・ジャズ・ボーカリストに選ばれる。

彼女は、自身の音楽活動のほか現在は、ニューヨーク大学クライヴ・デイビス研究所の教授として、パフォーマンスと音楽家の分野を教える傍ら、グローバル研究のディレクターも務めている。

[ホルヘ・ローダー]

ペルーのリマ出身、幼い頃からギターの練習を始めその後クラシックのチェロの演奏を学び16才の時に奨学金を得てロシア留学している。

帰国後「リマ・フィルハーモニー管弦楽団」と「オペラ・オーケストラ」の副首席ベーシストに任命される。

クラシック演奏のかたわらジャズに興味を持つようになりボストンのニューイングランド音楽院の奨学金を得て入学する。

音楽の学位を得てニューイングランド音楽院を卒業後ニューヨークに拠点を移し

ジュリアン・ラージ、ソフィア・レイ、シャイ・マエストロ、ライアン・ケベリと長年にわたるパートナーシップを築き、ゲイリー・バートン、ネルス・クライン、ケニー・ワーナー、ジョン・ゾーンなどの革新者たちとステージを共有している。

彼は、2007年の国際ベーシスト協会ジャズコンペティションで優勝等数多くの賞を受賞し、2009年のセロニアスモンクベースコンペティションのセミファイナリスト選出されている。また、「ジュリアン・レイジグループ」のアルバムではグラミー賞にノミネートされている。

ホルヘ・ローダーは今日のジャズ界で最も多才で表現力豊かなベーシストの一人として知られており、シンフォニックな想像力とフォークミュージシャンの親密な抒情性、生々しいロッカーの攻撃的なエネルギーとアフリカ系ペルー人のルーツの軽快でリズムカルな感性を組み合わせ、確固たる基盤の中で幅広い影響力を伝えています。